

研究テーマ 既習事項を問い直し学習の調整を図ることを通して、
自分たちができることを選択・判断させる指導の工夫
—第6学年 「日本とつながりの深い国々」—

【提案】

社会科第6学年における国際単元の学習では、日本とつながり深い国の調査と国同士の比較に重点が置かれ、児童にとってはあまり身近な内容とは言えない現状がある。そこで、本実践では、新学習指導要領に位置付けられた国際理解から国際交流への接続において、文化の違いによるトラブルから学習の調整場面を設定することで、自分事として捉えやすくなり主体的に学習に取り組むことができると考えた。

グローバル化する社会において、外国の人々との共生には何が大切なのかを考える活動を通して、“国”だけでなく、自分たちと身近な外国の人々という“人”に着目し、どのように関わっていくのかを選択・判断する学習を目指した。



【ごみの出し方のパンフレットを活用して外国の人々との交流を体験する児童】

1 実践のポイント

(1) 児童の思考を揺さぶる、学習の調整場面の設定

「世界の人々と共に生きていくには、何が大切だろう」という学習問題において、「相手の国のことを理解する」という予想を基に世界の国の文化や習慣を調べ、まとめる。その後、川口市における外国人居住者と地域住民とのトラブルを事例として示し、「理解するだけでは共に生きていくことは難しい」と感じさせる。これまでの学習状況を把握し、これからの学習の進め方について試行錯誤し、学習の調整を図ることで、「交流することが必要だ」という事実気付かせ、外国の人々との交流について調べる活動へ移行する。

(2) 学習したことを生かして選択・判断する活動

外国の人々との交流について調べる活動で「相手のことを調べて理解するだけでなく、それぞれの国がもっている特色を認め合いながら交流を深めていくことが大切である」という学習問題の結論を導き出した。その上で児童に、自分たちがどのように関わっていったらよいのかを考え、選択・判断する学習を位置付けた。

2 実践の位置付け

(1) 小学校学習指導要領との関連

内容(3) グローバル化する世界と日本の役割について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア(ア) 我が国と経済や文化の面でつながりが深い国の人々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。

ウ(ウ) 地図帳や地球儀、各種資料で調べ、まとめること。

イ(ア) 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現すること。

本実践は、小学校学習指導要領第6学年の内容(3)のア(ア)及び(ウ)、イ(ア)に基づいて設定されたものである。ここでは、「我が国と経済や文化の面でつながりが深い国の人々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること」をねらいとしている。

そこで、本実践では、貿易や経済協力などの面、歴史や文化、スポーツの交流などの面で我が国とつながりの深い国を取り上げ、それらの国の人々の生活の様子を具体的に調べることを通して、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解するだけでなく、実際に交流することで尊重し合うことが大切であると気付くことを学習していく。取り上げる国は、歴史・文化・経済の面でつながりの深い中国、政治・経済の面で世界に大きな影響を与えるアメリカ、石油輸入額第1位で国交樹立から60年を越えたサウジアラビア、日本から多くの移民が移り住み前回のオリンピック・パラリンピックが開かれたブラジルとする。この4か国について学習することで、異なる文化や習慣の理解につながると考える。

また、交流については、近年川口市内で起こっている外国の人々との生活上のトラブルを取り上げ、自治体や法人の取組を学習する。その際、生活上のトラブルがどのように解決されたのかを手掛かりにすることで、実際に交流することの大切さの理解につながると考える。さらに、県や国での事例として県内を会場に行われる国際スポーツ競技大会や各交流イベントを取り上げ、交流することの意義について学習する。本小単元では、文化や習慣を理解するだけでなく、交流することの大切さについて考え、今後の自分たちが世界の人々と共に生きていくために必要なことを選択・判断できるよう配慮していく。

(2) 実践のポイントの学習評価との関連

・子供をよりよく見取るための多様な評価方法の実施

本小単元の第1・2時において、学習問題をつくった後、学習計画表を作成した。その際、どの国の何を調べるのかを記入するだけでなく、第7時の学習の調整場面を想定し、児童が自ら調べたい・調べなければならないものを記入できるようにした。この学習計画表を用いて、児童が学習問題の解決に向け、何について調べているのか、どのような段階を踏むのかを小単元を通して評価し見取ることは、課題解決に向けたカリキュラムマネジメント力を育成する上においても有効であると考えられる。

第3～5時の国際理解の学習においては調査シート(ワークシート)を用いて授業を進めた。児童は調べる内容を整理しながら調査シートにそれぞれの国についてまとめていった。児童が1時間の授業内にどの内容をどの程度調べることができたのかを評価するだけでなく、他の児童と交流する際にも用いて学習を進めることができた。

また、第9時においてはこれまで調べてきたものを基に学習問題の結論を考え、世界の人々とのかかわり方について選択・判断する際は、児童がこれまで学習してきた内容のどの場面からその選択・判断を行ったのかが分かるよう、ノートによる記述を行った。ノートを用いることで児童が学習してきた既習との関連付けを見取りながら評価を行うことができた。

3 実践の内容

(1) 単元の目標と評価規準

グローバル化する世界と日本の役割について、外国の人々の生活の様子などに着目して、地図帳や地球儀、各種資料で調べて、図や表にまとめ、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え表現することを通して、我が国と経済や文化などの面につながりが深い国の人々の生活は多様であること、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であるということを理解できるようにするとともに、自分たちが世界の人々とどのように関わっていったらよいのかを考えたり、選択・判断したりできるようにする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①外国の人々の生活の様子などについて地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、日本の文化や習慣の違いを理解している。 ②調べたことを図や表、学習問題の結論などにまとめ、我が国と経済や文化などの面につながりが深い国の人々の生活は多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。	①外国の人々の生活の様子などに着目して、学習問題を見だし、日本の文化や習慣の違いについて考え表現している。 ②国や県、市の取組を総合して国際交流の果たす役割を考え、学習したことを基に社会へのかかわり方を適切に表現している。	①グローバル化する世界と日本の役割について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、世界の人々とのかかわり方について考え、選択・判断しようとしている。

(2) 指導計画と評価計画（9時間）

○内の数字は時間を表す。

〈 〉内は、評価の方法を表す。

知：知識・技能 **思**：思考・判断・表現

態：主体的に取り組む態度

	学習活動・学習内容	評価の観点・内容・方法	資料
つかむ	① 訪日外国人者数や日本と諸外国とのつながりについて調べ、学習問題をつくり、予想する。 ・日本はビジットジャパンなど訪日外国人を増やす取組を行っていること ・外国人観光客や居住者が増加していること ・経済、文化、歴史、行事、観光などの様々な面で外国とつながっていること ・学習問題をつくり、予想を考えること 学習問題 世界の人々と共に生きていくには、何が大切だろうか。	思 ① 調べたことを基に話し合い、学習問題を見いだしている。 〈発言・ノート〉	・訪日外国人推移のグラフ
	② つながりの深い主な国々(アメリカ合衆国、中華人民共和国、ブラジル、サウジアラビア)の中から調べる国を決め学習計画を立てる。 ・世界地図や地球儀の中の位置 ・経済・貿易・文化などあらゆる面でアメリカ合衆国の影響を受けていること ・外国人居住者第1位が中華人民共和国であること ・石油輸入相手国第1位がサウジアラビアであること ・多くの日本人がブラジルに移住したこと ・学習計画を立てること	態 ① 調べたことを基に学習計画を考えている。 〈発言・学習計画表〉	・世界地図 ・地球儀

調べる	<p>③ 日本とつながりの深い国について、衣食住を視点として調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都、国旗、国歌、言語、人口、気候や土地の様子 ・衣食住に関する生活の様子 	<p>知① 教科書、図書資料、インターネット、聞き取り調査を通して、自分が選択した国について調べている。</p> <p>〈調査シート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図 ・地球儀
	<p>④ 日本とつながりの深い国について、年中行事と日本とのかかわりを視点として調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本との関係 ・年中行事の様子や宗教について 	<p>知① 教科書、図書資料、インターネット、聞き取り調査を通して、自分が選択した国について調べている。</p> <p>〈調査シート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図 ・地球儀
	<p>⑤ 日本とつながりの深い国について、産業を視点として調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さかんな産業 ・その他の特色 	<p>知① 外国と日本との異なる文化や習慣を理解している。</p> <p>〈発言・調査シート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図 ・地球儀
	<p>⑥ 調べた国々と日本との共通点や相違点を考え、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの国や日本には大切にしている文化や習慣があること ・国同士の文化を尊重することが重要なこと 	<p>思① 調べた国々と日本とを比較し共通点や相違点を表現している。</p> <p>〈発言・調査シート〉</p>	
	<p>⑦ 外国人居住者と地域住民とのトラブルの事例から、交流することの大切さに気づき、地域住民や川口市の取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いを理解するだけでは共生が難しいこと ・学習の調整を図ること ・芝園団地の交流活動 ・川口市在住の外国の人々向けに作られた広報紙やホームページなどがあること ・川口市では文化の違いを尊重した取組が行われていること <p style="text-align: center;">実践のポイント (1)</p>	<p>知② 動画資料や新聞記事、広報紙などで外国の人々との交流活動について調べ、必要な情報を集め、読み取り、川口市や地域住民が外国の人々との共生に向けた取組をしていることを理解している。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報かわぐち ・芝園団地写真
	<p>⑧ 日本や埼玉県が行っている国際交流事業の実施とその意味について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック2020に向けて国が行っている取組 ・埼玉県が行っている国際スポーツ大会 ・国際交流が与える影響 	<p>知② スポーツや文化などを通して交流することで、互いを尊重し合うことが大切であることを理解している。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア募集の記事 ・国際大会ポスター
まとめる・生かす	<p>⑨ これまでの学習を基に学習問題の結論を導き出し、世界の人々とのかかわり方について考え、選択・判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習問題の結論を導き出すこと 	<p>思② 国や県、市の取組を総合して国際交流の果たす役割を考え、学習したことを基に社会へのかかわり方を適切に表現している。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川口市の人口グラフ
	<p>学習問題の結論</p> <p>世界の人々と共に生きていくためには、それぞれに特色ある文化や習慣を理解するだけでなく尊重し合いながら交流を深めていくことが大切である。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・川口市の総人口の約5%を外国人が占めていること ・川口市の外国人居住者数が10年間で約2倍に増加し、今後も増加が予想されていること ・世界の人々とのかかわり方について選択・判断すること <p style="text-align: center;">実践のポイント (2)</p>	<p>態② 学習したことを基に、今後の外国の人々とどのように関わっていけばよいかについて考えようとしている。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>	

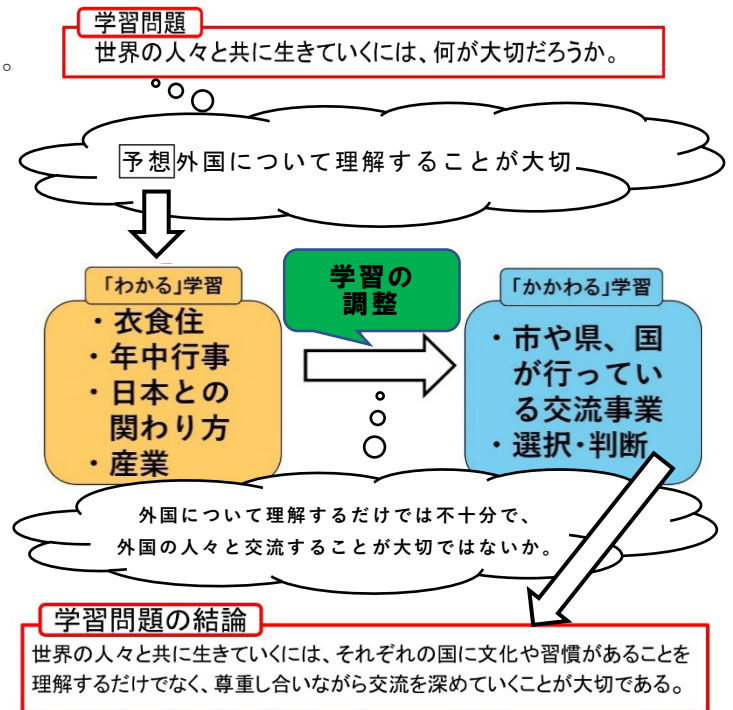
4 実践結果と考察

(1) 児童の既習を揺さぶる、学習の調整場面の設定

本実践では、学習問題に対する予想を考える段階で、「児童に外国の人々と仲良く生活するためにはなにが大切か」と問いかけたところ、多くの児童が「相手のことを理解すること」と答えた。これは、生活経験や道徳などの他教科の学習を基に考えていたからである。そこで、日本とつながりの深い国々の文化や習慣について調べる学習計画を立てた。

その後は、計画に沿って学習を進め、日本とつながりの深い国々についてまとめた。また、予想通り相手を理解することが大切だと確認できたことで、児童は外国の人々と共に生活をしていくことができると自信をもって答えるようになった。

そこで、児童の既習を揺さぶる資料として、川口市の芝園団地における日本人と外国人居住者とのトラブルの事例や、日本で生活している時に困った体験をインタビューした動画を提示することで、「文化や習慣を理解するだけでは共に生きていくことは難しい」ということに気付かせ、「理解するだけでなく、交流することが必要である」という新たな視点に気付かせた。これらの活動により、学習の調整が図られ、外国の人々との交流について調べる活動へ移行していった。



日本とつながりの深い国々

1	学習問題をつくり、予想をする 世界の人々と共に生きていくには、何が大切だろうか。
2	学習計画をたてる 調べる国(サウジアラビア)
3	① 調べる 国旗 人口 宗教 言葉 気候 文化
4	② 調べる 衣食住
5	③ 調べる 日本とのつながり
6	まとめ

※内容調整
2時間→
1時間

日本とつながりの深い国々

1	学習問題をつくり、予想をする 世界の人々と共に生きていくには、何が大切だろうか。
2	学習計画をたてる 調べる国(サウジアラビア)
3	① 調べる 国旗 人口 宗教 言葉 気候 文化
4	② 調べる 衣食住
5	③ 調べる 日本とのつながり
6	まとめ
7	交流 (学習調整)
8	④ 調べる 県の交流
9	⑤ 調べる 国の交流 一緒
10	まとめ

【第2時に児童が立てた学習計画】

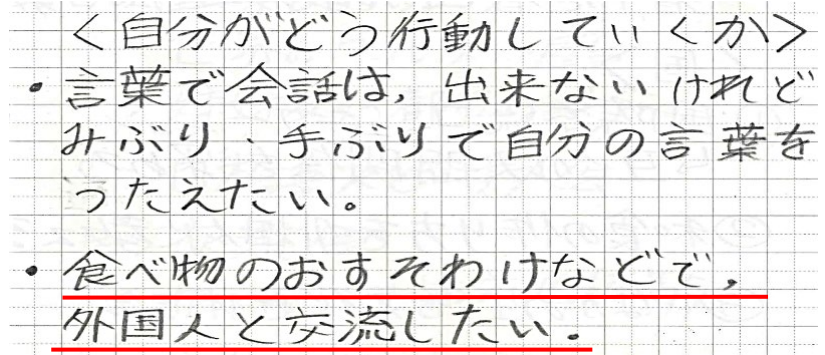
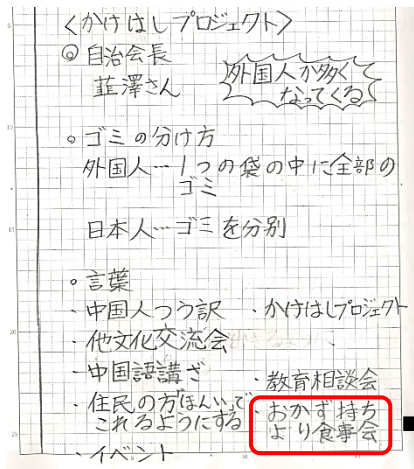
【第7時に児童が立てた学習計画】

上記のように、「わかる」学習で、文化や習慣について調べた後、学習の調整によって、外国の人々との交流について調べる、「かかわる」学習に移行した。「かかわる」学習では、市や県、国が行っている外国の人々との交流事業を調べた。これらの「かかわる」学習が加わったことによって、「世界の人々と共に生きていくためには、それぞれの国に文化や習慣があることを理解するだけでなく、尊重し合いながら交流を深めていくことが大切である」という結論を導き出した。

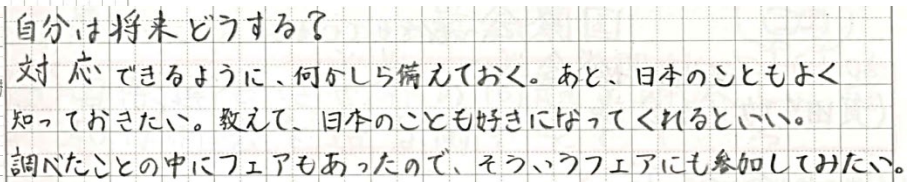
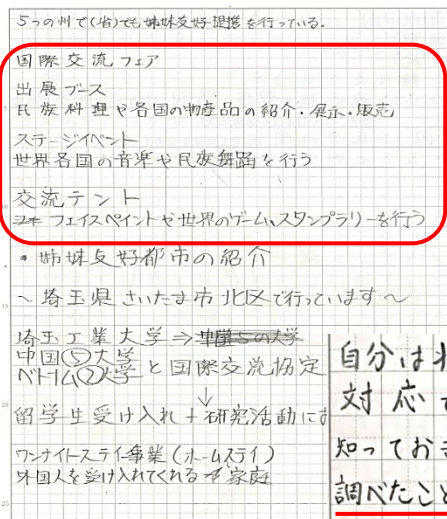
(2) 学習したことを生かして選択・判断する活動

本小単元の終末において学習問題の結論を導き出した後、児童にこれからどのように世界の人々とどのようにかかわっていったらよいかを考え選択・判断させた。

選択・判断する活動では、第7・8時に調べた取組を基に、自分にはどのようなかかわり方ができるのかを考えさせた。



【第7時に児童が調べた内容を基にした選択・判断】



【第9時に児童が調べた内容を基にした選択・判断】

上記の振り返りのように児童は、第7・8時で調べた取組を基に、自分のかかわり方を考えることができた。学習の調整によって、地域住民が外国人居住者と交流をしていくことが大切であるということに気付くことができた。世界の人々とのかかわり方を考えながら具体的な取組を調べていったことでより深い選択・判断につなげることができた。

5 研究の成果と今後の課題

〈成果〉

- ・児童の思考を揺さぶる学習の調整場面を学習過程に位置付けたことで、文化や習慣の違いを捉えるだけでなく、国際交流の果たす役割まで考えることができた。
- ・学習を生かした選択・判断を行うことで、世界の人々と交流し異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であると気付かせることができた。

〈課題〉

- ・選択・判断する活動を取り入れたことにより、授業時数が増えたためカリキュラムマネジメントを行う必要がある。